

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

高雪研 I N 群馬 (群馬県 井田先生の情報提供)

群馬県高体連登山専門部の冬山顧問講習会は今年で 50 回を数えるそうだ。日程は 2 泊 3 日だが、その第 1 日目を今年は「高雪研」として実施した。ここで、顧問講習をしたのち、3 月の春休みに生徒を対象にした春山講習会を行っているという流れだそうだ。この生徒の講習会のルーツは昭和 49 年まで遡るということだが、それについてはまた別の号で紹介しよう。今号では、2 月 16 日から 17 日にかけて行われた講習会の様子を群馬県の井田先生から届けていただいたので、それをご紹介します。

初日は 9 時 30 分に戸倉スキー場に集合し、ワカン・スノーシュー班と山スキー班に分かれて、スキー場周辺の尾根を利用した雪上歩行の基礎技術訓練を行った。ワカン・スノーシュー班は班長の山田先生の指導の下で、つぼ足によるフラットフットイングやキックステップ、トラバース時の足運び及びストックの使用方法など、二日目以降の登山行動の基本となる技術を確認することができた。山スキー班も同様に基礎技術を確認後、ゲレンデを滑り降り、スキーの感触を確認した。

午後は尾瀬ぶらり館に移動し、座学講習「雪崩に関する知識と対策」を受講した。はじめに国立登山研修所専門調査委員で長野県の大町岳陽高等学校教諭の大西浩氏による那須雪崩事故検証委員会報告が行われ、雪崩事故に至った経緯や計画の問題点、今後の高校山岳部の指導のあり方における課題やその対策についての講習が行われた。

次に野外実習として、大西氏と同様に国立登山研修所専門調査委員で雪氷学の専門家である富山県立山カルデラ砂防博物館の飯田肇氏と日本山岳ガイド協会認定山岳ガイドの松田好弘氏による雪の観察およびビーコンの使用方法の講習が行われた。駐車場にて実際に積雪している雪の断面を観察し、様々な層に分かれていることを確認するのに加えて、雪崩遭遇時のレスキューの要となるビーコンの使用方法を体験する講習が行われた。



積雪断面の観察

続いて再び座学講習に戻り、国立研究開発法人防災科学研究所の中村一樹氏により、雪と雪崩の性質について科学的な見地からの理論的な説明が行われた。雪の状態変化による積雪の分類や雪崩の発生メカニズムなど、実際の事例を取り上げ、先ほどの野外実習と併せて非常に具体的でわかりやすい講習が行われた。

最後に飯田氏と松田氏により雪崩遭遇のリスクマネジメントのポイントおよび遭遇時のレスキューの方法について講習が行われ、座学講習会は終了となった。5 時間を超える長時間の講習であったが最初から最後まで充実した内容で、非常に多くのことを学ぶことができた。この場を借りて、遠方よりお越しいただいた講師の方たちに深く感謝申し上げます。

二日目は 5 時 30 分に起床し、富士見旅館を各自が出発し、戸倉スキー場に集合、いよ

いよいよ二日間の登山行動が開始された。今回は参加者全員が沼田山岳会からお借りしたビーコンを身につけての行動となるため、初めにビーコンの動作状態チェックを行い、スキー場先の林道を8時30分に出発した。天候は雪で、二つの低気圧・前線と冬型の気圧配置の影響で、その後二日間降り続いた。程なくして今回のコース上に二つある雪崩の危険性の高いポイントの一つ目に到着。安全確認とレスキューを考慮し、10メートル間隔で斜面に注意をしつつ素早く通過した。8時50分に堰に到着し、水分補給と体温調整を行う。その後は林道区間を順調に詰めていき、9時41分に富士見下山荘跡のトイレ前に到着。トイレは積雪で入口が塞がれていた。

9時56分、いよいよ本格的な登山の開始。コンパスを十二曲の夏道との合流地点(1400メートル)に合わせて直登していく。初参加ということで先頭でのラッセルをさせていただく。コンパスを信じて突き進み、目的のポイントに到着(10時10分)。ここから二つ目の雪崩危険ポイントを通る。20メートルほど間隔を空けて素早く進む。途中、雪崩の予兆とされる雪の塊が転がっており、もし直撃したらと思うと恐怖を感じた。全員無事に通過し、本日の目的地である田代原に向けて再びコンパスを合わせて突き進む。11時01分に視界が開け、田代原に到着。井田先生が事前に当たりをつけていたポイントに向かい、11時15分に幕営地到着。本日中に下山するNHK取材班とはここでお別れとなった。テントの設営を開始し、各班が班員全員で腕や肩を組み雪面を踏み固める。夏山での幕営とは勝手が違うことも多く、とても勉強になった。特にテント入口の前室部分を土間のように一段低く掘り、腰掛けた状態で出入りする仕組みなどは雪中泊ならではの感じた。テント設営後は昼食を取りつつ、午後の行動計画・戦術を確認する。その間、小林先生と井田先生がトイレの設営準備をしてくださった。



田代原に向けて尾根を登る

13時20分に午後の行動開始。サブザックで行動し、地形図上に設定された六つのポイントをコンパスワークと読図、実際の地形観察を頼りに辿り、幕営地に帰着するという訓練を行った。初参加ということで、この訓練でも新井班の先頭で行動をさせていただき、他の先生方から様々なアドバイスをいただきながら、各ポイントを回った。いつも思うことだが、コンパスワークと地形図の威力は絶大で、実際の地形とピタリと一致したときは毎回ある種の感動を覚える。15時32分に幕営地に帰着。みんなでトイレの仕上げを行い、翌日の起床と定時連絡時間を確認後、各班のテントへ潜り込む。

ひと心地付いたところで炊事・夕食に取りかかる。山行中の食料計画は非常に重要で、日中に長時間行動した日の夕食は疲労回復と水分補給、翌日の行動のための英気を養う意味でも多くの学校で工夫がされている。大会などで他校と幕営地をともにすることはあるが、そういった工夫を直接知れる機会はとても貴重である。特に今回のような厳冬の雪山登山では、本人が自覚しないうちに脱水状態となっている場合も多いということで、効率的な水分摂取のためによく締まった雪を溶かしてお湯を作るなどの方法を学ぶことができた。また、低体温症にならないために効率よく熱量に変換される炭水化物の摂取や糖分の補給など様々なことを考慮したうえで食料計画は立案されるべきである。そうした点をテントの中でも学ぶことができた。テント内は休息の場であるとともに、山中における生活技術を学ぶ「学びの場」であった。